

りんごの斑点落葉病と褐斑病に注意

～多発園では直ちにユニックス顆粒水和剤47を散布してください～

1. 現在までの発生状況と今後の発生予想

7月中旬のふじの巡回調査（20地点）における斑点落葉病の発病葉率は4.6%（平年2.0%）、発病地点率は90.0%（平年73.9%）でいずれも高かった（表－1）。同調査における褐斑病の発病新梢率は1.8%（平年0.1%）、発病地点率は45.0%（平年1.4%）でいずれも高かった（表－2）。

7月25日に仙台管区气象台から発表された1か月予報によると、向こう1か月の降水量は平年並か多いと予報されている。

以上のことから、今後も斑点落葉病と褐斑病の発生量が多くなると予想されるため、園地内の発生状況を確認し、以下に示す防除対策を徹底する。

2. 防除対策

1) 耕種的防除

① 園地内の見回りを行い、発病葉は見つけ次第摘み取り、園地外へ搬出して埋没又は焼却する。

2) 薬剤による防除

- ① 散布する際は、斑点落葉病及び褐斑病が多発している園地では、ユニックス顆粒水和剤47を必ず保護殺菌剤（表－3）に加用して直ちに散布する。
- ② 定期散布を前倒しにして雨前散布を行う。降雨が続いている場合でも、晴れ間を縫って雨間散布に努める。

3. 資料

表－1 7月中旬の巡回調査における斑点落葉病の発病葉率と発病地点率

	県北部		県中央部・県南部		全県	
	発病葉率 (%)	発病地点率 (%)	発病葉率 (%)	発病地点率 (%)	発病葉率 (%)	発病地点率 (%)
2024	9.7	100	1.9	84.6	4.6	90.0
平年	2.0	78.6	2.0	71.2	2.0	73.9
概評	多	やや多	平年並	やや多	多	多

表－2 7月中旬の巡回調査における褐斑病の発病新梢率と発病地点率

	県北部		県中央部・県南部		全県	
	発病新梢率 (%)	発病地点率 (%)	発病新梢率 (%)	発病地点率 (%)	発病新梢率 (%)	発病地点率 (%)
2024	0.8	28.6	2.4	53.8	1.8	45.0
平年	0.1	1.3	0.0	0.8	0.1	1.4
概評	多	多	多	多	多	多

表-3 りんごの斑点落葉病及び褐斑病に対する防除薬剤

RAC コード	薬剤名	希釈倍数	使用時期	本剤の 使用回数	各成分の 総使用回数	備考
9	ユニックス顆粒水和剤47	2,000倍	収-14日	4	4	
M1	キノドーフロアブル	800倍	収-14日	4	ア	
M1	ドキリンフロアブル	800倍	収-14日	4	ア	
M4・P7	アリエッティC水和剤	800倍	収-前日	3	イウ	保護殺菌剤
M7・M4	ダイパワー水和剤	1,000倍	収-前日	6*	イエ	
M7・M1	ベフキノン水和剤	1,000倍	収-14日	3	アエ	
M7	ベフラン液剤25	1,500倍	収-前日	6*	エ	

RACコード

9:AP殺菌剤 M1:無機化合物(求電子剤) M4:フタルイミド(求電子剤)

M7:ピスグアニジン(細胞膜攪乱剤、界面活性剤) P7:ホスホナート

本剤の使用回数

*:6回以内(但し、開花期以降散布は3回以内)

各成分の総使用回数

ア:有機銅(7回以内(塗布は3回以内、散布は4回以内)) イ:キャプタン(6回以内)

ウ:ホセチル(3回以内)

エ:イミノクタジン(8回以内(液剤及び水和剤は合計6回以内(開花期以降は3回以内)、塗布剤は2回以内))

【 問合せ先 】

秋田県病害虫防除所	TEL	018-881-3660
秋田県果樹試験場	TEL	0182-25-4224
かづの果樹センター	TEL	0186-25-3231
掲載HP https://www.pref.akita.lg.jp/bojo/		